



# 東京都国公立幼稚園・こども園長会 会報

第150号  
令和6年7月12日発行  
会長 和田万希子  
台東区橋場1-35-1  
03-3876-0049



今こそ 国公立幼稚園・  
こども園の頑張りどき

東京都国公立幼稚園・こども園長会  
会長 和田 万希子

私の園のある台東区では地域のお祭りが完全復活し、五月から六月にかけて毎週、区内のどこかで祭囃子が聞こえています。それを受けた今年は、例年以上にお祭りごっこが盛んです。子どもたちが作ったみこしを担いで園の周りを練り歩いていると、地域の方がとても喜んでくださり、たくさんお声を掛けていたりました。皆様の地域でも、新型コロナウイルス感染症の影響で中止、縮小されていた地域の行事が戻ってきていくことと、思います。今年度は改めて、園が地域とのつながりを取り戻し、地域の中の園の存在をアピールできる年である、と考えます。

さて、令和六年度総会後には、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長 前田幸宣様よりご講演いただき、幼児教育の現状と今後について、たくさんのご示唆をいただきました。そのお話をの中で、特に皆様と共有したいことは「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価の在り方に関する有識者会議 第五回意見のまとめ」です。詳しくは各自ご確認いただきたいと思いますが、その中で『保育園や私立園にも配慮』としながらも、はつきりと「国公立幼稚園の役割」として、その重要性が示されました。また、地域に国公立園が無い状況は、幼児教育の質の確保と向上に深刻な影響があるとも示されています。

このことは、国公立園の存続の後押しとなる、大変うれしいことです。しかしながら、我が園、我が区・市等の取組を振り返ったとき、私たちは、「国公立園の役割」を、確実に実践している、と自信をもって言えるでしょうか。今こそ、「国公立園の役割」をしつかりと果すために、各園が、そして都の園長会が、いつそう努力することが重要です。今が私たちの頑張りどきです。その上で、私たち国公立園の教育そのものが、地域の教育力として、失ってはならない財産である、ということを地域や行政に堂々と発信してまいりましょう。

江戸川区立船堀幼稚園

本園は区内唯一の公立幼稚園として「足育・心育・遊育・食育・共育」の五つの柱で教育を進めています。特に「足育」では靴の履き方指導や足育朝の会等を通して、体幹を育て楽しく元気に運動遊びに取り組んでいます。木々を利用したロープ渡りにチャレンジしたり、近隣の火の見やぐらで忍者になつて修行をしたり魅力的な環境があります。

毎日の給食と共に、畑で育てたソラマメやダイコンを味わっています。ベテランの教職員に支えられ、子どもたちは笑顔いっぱい。幼児期にふさわしい豊かな教育を通して二年間で大きく成長します。



年長のこいのぼりが青空へ



ロープ渡りにチャレンジ



## 総会概要

令和6年度定期総会が、五月十日、森下文化センターにて開催された。  
 来賓として、東京都教育局指導部義務教育指導課主任指導主事馬場一平様、東京都公立幼稚園・こども園P.T.A.連絡協議会会長橋本啓太郎様、特別区人事・厚生事務組合教育委員会事務局幼稚園教員選考・研修担当課課長吉川紀代司様、全国国公立幼稚園・こども園長会会長高橋慶子様、東京都教育会常任理事高圓元美様、東京都特別区人事・厚生事務組合教育委員会事務局人事企画課主任御手洗竹代様、中島真佐美様のご臨席を賜り、盛大に行われた。

【会長挨拶 和田万希子会長】  
 本日は、お忙しい中、多くの皆様にご臨席賜り、ありがとうございました。昨年度は、こども家庭庁が新設され、乳幼児の育ちに関わる施策や方針が打ち出された一年でした。国や都が目指している「こどもまんなか社会」「チルドレンファースト」「ウエルビーリング」の実現のためには、幼児期にふさわしい教育を実践し、地域と繋がる国公立幼稚園・こども園の存在は不可欠であると自負しております。しかし、国公立幼稚園・こども園は、危機的な状況にあり、在り方を検討する自治体も数多くあります。このような状況下で私たちは、必要とされ、選ばれる園になっていく必要があります。

この園長会は、園長が研鑽を積む場、国公幼や行政関係機関から様々な情報を得る場、各区市等の園長会の横のつ

ながらを生かして様々な情報を共有する場もあります。私たち園長一人の力は小さいものですが、都の園長会一五九人の仲間と研鑽し、語り合い、励まし合って、様々な課題を乗り越える力を付けて、みんなで頑張って参りましょう。

【来賓挨拶 馬場一平様】  
 東京都国公立幼稚園・こども園長会が、これまで東京都の就学前教育の充実・発展に多大なる貢献をしてこれましたことに深く敬意を表します。

令和五年二月、幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の審議のまとめには、幼児教育の遊びを通して遊びが小学生教育などのように繋がっている事例を通して具体的に対話することが重要と述べられています。

東京都国公立幼稚園・こども園においては、子どもの豊かな感性を育むための研究や令和の日本型学校教育の土台となる幼稚教育の推進に取り組まれた実績がございます。引き続き、架け橋期の教育により一層の充実に向けてご尽力いただきますようお願いいたします。

【来賓挨拶 橋本啓太郎様】  
 東京都Pでは、ホームページのリニューアル、オンラインサロンの開催など、負担は少なくメリットは多くということを目指して新しい一步を踏み出しました。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

この後、来賓紹介、新会員紹介、議事と滞りなく進行し、令和6年度の活動方針や計画などが審議、承認された。

## 令和6年度 東京都国公立幼稚園・こども園長会活動方針

ながりを生かして様々な情報を共有する場でもあります。

私たち園長一人の力は小さいものですが、都の園長会一五九人の仲間と研鑽し、語り合い、励まし合って、様々な課題を乗り越える力を付けて、みんなで頑張って参りましょう。

【来賓挨拶 馬場一平様】  
 東京都国公立幼稚園・こども園長会が、これまで東京都の就学前教育の充実・発展に多大なる貢献をしてこれましたことに深く敬意を表します。

令和五年二月、幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の審議のまとめには、幼児教育の遊びを通して遊びが小学生教育などのように繋がっている事例を通して具体的に対話することが重要と述べられています。

東京都国公立幼稚園・こども園においては、子どもの豊かな感性を育むための研究や令和の日本型学校教育の土台となる幼稚教育の推進に取り組まれた実績がございます。引き続き、架け橋期の教育により一層の充実に向けてご尽力いただきますようお願いいたします。

【来賓挨拶 橋本啓太郎様】  
 東京都Pでは、ホームページのリニューアル、オンラインサロンの開催など、負担は少なくメリットは多くということを目指して新しい一步を踏み出しました。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

この後、来賓紹介、新会員紹介、議事と滞りなく進行し、令和6年度の活動方針や計画などが審議、承認された。

1. **幼稚園教育要領等を踏まえた創意工夫に基づく幼稚園・こども園の教育の質の向上に努める**  
 ○ 幼稚園・こども園の教育の充実・発展のために、幼児期にふさわしい豊かな教育環境を創造し、「生きる力」の基礎を培う。

○ 近隣の小学校、私立幼稚園、保育所をつなぎ、地域の架け橋期の教育の充実を図り、幼児期の教育の更なる質の向上と学びの接続を推進する。

○ 幼児期の直接的・具体的な体験を更に豊かにするためのICT環境の活用を工夫する。

○ 保護者・地域と共に、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める。

○ 保護者の育児不安や悩みに寄り添いながら、子育て相談事業や幼稚園・こども園の子育ての文化・情報の発信の工夫により、保護者が子育ての喜びや生きがいを実感できるようする。

○ 幼児教育のセンターリーの役割を果たし、地域の乳幼児をもつ家庭を支えるとともに、保護者が自らの学びを通してより豊かな子育てができるよう支援の充実を図る。

## 令和6年度役員

会長	台東・石浜橋場こども園	和田	万希子
副会長	千代田・番町幼	中村	千絵
副会長	江東・南陽幼	鳥居	三千代
副会長	台東・富士幼	足立	祐子
庶務部長	千代田・ふじみこども園	小林	晶子
会計部長	世田谷・砧幼	島崎	智恵子
涉外部長	港・中之町幼	大橋	美都子
広報部長	豊島・南長崎幼	高橋	順子
調査部長	葛飾・水元幼	矢野	靖子
研修部長	文京・柳町こどもの森柳町幼	吉原	優子
課題研究部長	江東・豊洲幼	福原	良子
監査	新宿・西新宿子ども園	南澤	貴理
監査	北・うめのき幼	篠澤	恵理

- 3 保育者の資質・能力の向上を図る**
- 地域の活動の一環として預かり保育の質の向上を図るとともに、子育ての支援に努める。
  - 地域の連携を密にし、共に活動し、幼児期の教育の充実を図る。
  - 自ら意欲的に学び、使命感と豊かな識見や指導力をもった保育者を育てるために、関係諸機関からの理解や協力を得ながら、研修体制の充実に努める。
  - 子どもの最善の利益を守るために、保育者の人権感覚を磨き、人権課題についての理解と認識を深める機会や研修体制の充実を図る。
  - 園における業務のICT化による働き方改革を推進し、保育者の業務の負担軽減を図ることで、園内外の研修への参加や自己研鑽の時間を確保し、園全体の教育力を高める。
- 4 幼稚園・こども園の環境や教育諸条件の整備・充実に努めるべく、関係諸機関と連携を図る**
- 実施した調査や国や自治体の方針を踏まえ、情報の共有化を図り、関係諸機関へ積極的に働き掛ける。
  - 誰一人取り残すことのない教育を目指し、障害のある幼児や外国籍の幼児等、様々な支援を要する幼児について、人的配置や環境整備、関係諸機関との連携など、諸々の課題解決に努める。
  - 幼稚園・こども園の教育的重要性とともに、国公立園の強みとその存在意義を広く発信し、家庭や地域、行政機関との連携を図る。
- 5 園長会長及び園数と園児数等**

(4月1日現在)

区 市		会 長 名	園 名	園数(休園)	園 児 数	専任園長数	副園長数
1 千 代 田	穴 原 江 美	いづみこども園	8	509	5	3	
2 中 央 大	上 竹 阳 美	晴海幼稚園	14(1)	964	10	4	
3 港 港	酒 井 正 美	麻布幼稚園	12	650	11	3	
4 新 宿 京	井 口 美	市谷幼稚園	24(7)	676	4	4	
5 文 台 墨 東	比 良 由 惠	千駄木幼稚園	10	470	10	7	
6 墓 江 東	北 宮 由 惠	大正幼稚園	11	455	9	2	
7 江 東	田 居 宏	立花幼稚園	6	102	3	1	
8 品 目 田	川 丸 三	南陽幼稚園	16	621	8	8	
9 江 東	高 佐 智	八潮わかば幼稚園	9	409	4	4	
10 渋 田	谷 幸 由	みどりがおかこども園	3	161	3	2	
11 渋 田	谷 有 一	中町幼稚園	8	278	6	5	
12 中 杉 田	野 順 美	千駄谷幼稚園	5	125	2	3	
13 豊 田	並 齊 美	かみさぎ幼稚園	2	117	6	2	
14 豊 田	島 高 順	成田西子供園	6	334	1	4	
15 豊 田	谷 佐 尚	南長崎幼稚園	3	59	3	0	
16 豊 田	野 中 順	さくらだこども園	4	186	2	2	
17 豊 田	並 齊 尚	尾高島幼稚園	9	265	1	1	
18 豊 田	北 川 秀	光が丘さくら幼稚園	1	69	3	3	
19 豊 田	練 順	おおやたこども園	3	147	2	4	
20 豊 田	足 馬 美	水元幼稚園	2	189	1	0	
21 豊 田	葛 戸 順	船堀幼稚園	1	37	3	0	
22 豊 田	戸 馬 順	第二幼稚園	3	46	1	0	
23 日 野	北 江 順	東京学芸大学附属幼稚園	2	51	0	0	
24 国立大附属	北 奥 住	358	0	358	0	3	
合				計	165(8)	7278	105
						68	

## 定期総会講演概要

(令和六年五月十日講演)

### 「これから幼児教育に期待すること」

文部科学省初等中等教育局幼児教育課長

前田幸宣氏

#### I 幼児教育を取り巻く現状

令和三年一月の中央教育審議会答申において、「『令和の日本型学校教育』」の構築を目指して、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」として、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力が示された。個別最適な学びにおいては、学習の目標もアプローチの仕方も様々であり、教師の指示があつて座つていれば終わる学習から、子供が自己調整しながら主体的に進める学習へと改められた。自分の得意なものやよさを見出して得意なことを徹底的に伸ばしていく。一人一人の子供それぞれに、学校に行くと自分の出番があるということである。そうした学習の土台となり、スタートにあるのが幼児教育である。

幼児教育の質の保障については、「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を一体的に育み、小学校以降の教職員や地域、家庭等との連携の手掛かりとなるよう「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を五歳児修了時の具体的な姿として共有しながら、小学校教育との一層の接続強化を図ることが求められている。

#### II 小学校以降の学びを見据えた幼児教育・保育の展開

令和五年二月に行われた中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の審議まとめ「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について」、「幼保小の協働による架け橋期の教育の充実」において、〇歳から十八歳までの学びの連続性に配慮しつつ、五歳児から小学校一年生の二年間の「架け橋期」に焦点を当てて、教育の充実を図り、

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるよう示された。

幼保小が協働して、「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」等を共有しながら、架け橋期のカリキュラムを作成し、小学校一年生の修了時期を中心と共に振り返って、架け橋期の教育目標や日々の教育活動を評価することで、幼保小それぞれの教育を充実させていくことが大切である。

幼保小接続の改善ポイントを、「これまで～これから」で並べると、目的は、「小学校への順応～学びの連続」へ、内容は、「交流活動～カリキュラム編成」へ、期間は、「数か月～二年」へ、実施単位は、「施設単位～地域単位」へという切り替えが重要であるということであり、施設間での共有が必要である。複数の幼児教育施設から小学校に進学するため、横の連携はもちろん、地域で一體となつて取り組めるよう、行政の役割が重要である。また、地域住民の理解を得て、地域住民と共に推進することが大事であり、それを実践できるのが公立園である。地域の幼児教育力を高め、それぞれの地域で特色ある幼児教育を推進することが望まれる。

#### III 幼児教育の重要性の理解促進

幼児教育をはじめとする教育の質の向上について、これまでの経験や勘に頼らず、科学的根拠を基にした対応が求められている。欧米では、幼児教育と子供の将来への影響についての調査が実施されており、幼児教育の重要性が認識されているが、日本では、小規模、短期間の調査しかなく、重要性の認識が低かった。そこでその対応として、今年度より、幼児教育がどう子供の将来へ影響するのかに関する大規模縦断調査事業を実施し、得られた実証データを分析しエビデンスに基づいた政策形成に取り組むこととした。子供の成長に資する質の高い幼児教育を科学的に明らかにし、幼児教育が子供の発達、小学校以降の学習や生活にどう影響を与えるかについて検証を行う。

約一万五千名の五歳児を対象として、アンケートによる五年間の追跡調査を実施する。調査開始時点で、就学前教育・保育施設（施設種、公立・私立、認可・無認可は問わない）に通う五歳児の子供を持つ保護者、右記の五歳児が通

う施設の園長・担任保育者、右記の五歳児が就学した小学校の校長・担任教師に対し、子供の成長、資質・能力、家庭での養育環境等（保護者）、保育者の人数、園の取組、労働環境、保育者の実践等（園）、幼保小接続の取組、学校風土等（小学校）を調査する。様々な分野からの研究者でネットワークを構築し、多様な視点から分析等を行う。

また、幼児期及び幼保小接続の教育に関する参考資料（※）として動画を作成した。今回、視聴したい。

※文部科学省動画コンテンツ「遊びは学び 学びは遊び やつてみたいが学びの芽」～『やつてみたい』から始まる学びの芽の育成～

#### IV 幼児教育の重要性と国公立幼稚園・こども園に期待される役割

国公立園には教育の連続性と小学校以降の学びへの影響という幼児教育の重要性を、小学校と連携して地域・保護者にアピールしていく役割を期待する。現在審議中の「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方にに関する有識者検討会」の中でも、地域の幼児教育振興の体制の在り方における国公立幼稚園の役割を期待する声が多く出された。主な意見として、○これまで園内研究の推進や自治体の研究指定等を通して実践研究や公開保育研修等を担つてきたりする声があつてもいい。園、家庭、地域、社会、そして世界、どのような枠組みの中でも同じである。この基盤をつくるのが園である。「子どもが未来を信じることができる」とは、自分自身が可能性ある存在である、といふ理解である。自分の未来は誰かがつくってくれるのを待つものではなく、限なく広がっているものであり自分の力で切り拓いていけるものである、と感じられることがある。そして、いろいろな人、いろいろな国、いろいろな民族、その中にいる自分、世界市民であるということを感覚として身に付けていくことである。私事になるが、我が子は幼少期を過ごしたフランスで、友達と誕生日会を行っていた。子供たちは自分で選んだ衣装を身に着けて参加するが、互いに自分のよさを主張し合い、それぞれの民族の衣装や多様なものが尊重されていた。子供にどのような存在であつてほしいと考えるか、どこの国であつても基本となるものは変わらない。世界市民・多様性・包摂性という考え方が重要である。これまでの長い歴史の中で培ってきた幼児教育の本質をしっかりと進めていただきたい。

大変厳しい状況の中ではあるが、国公立幼稚園・こども園のこれからに大いに期待している。

- ・地域の園や小学校とを繋ぐ結節点としての機能
- ・特別な配慮を必要とする幼児の教育機会の保障の場としての機能
- ・専門人材の育成機能

さらにもう一つの期待される役割は、公教育の質の向上を図る基盤としての園であること。三年保育、預かり保育、認定こども園への移行、だれでも通園制度等の他、社会や地域のニーズを敏感に読み取りながら応えていくことである。最後に、以下の三つのことを伝えたい。

★子どもが何よりも豊かであること

★子どもが求められる存在、求める存在であること

「子どもが何よりも豊かであること」とは、心身ともに健康であることである。「子どもが求められる存在、求める存在であること」とは、お互いの存在を他者とのコミュニケーションを通じて「ここにいていい」と感じることができる居場所があることである。時には協力を求めたり助けてほしいと声に出したりすることがあつてもいい。園、家庭、地域、社会、そして世界、どのような枠組みの中でも同じである。この基盤をつくるのが園である。「子どもが未来を信じることができる」とは、自分自身が可能性ある存在である、といふ理解である。自分の未来は誰かがつくってくれるのを待つものではなく、限なく広がっているものであり自分の力で切り拓いていけるものである、と感じられることがある。そして、いろいろな人、いろいろな国、いろいろな民族、その中にいる自分、世界市民であるということを感覚として身に付けていくことである。私事になるが、我が子は幼少期を過ごしたフランスで、友達と誕生日会を行っていた。子供たちは自分で選んだ衣装を身に着けて参加するが、互いに自分のよさを主張し合い、それぞれの民族の衣装や多様なものが尊重されていた。子供にどのような存在であつてほしいと考えるか、どこの国であつても基本となるものは変わらない。世界市民・多様性・包摂性という考え方が重要である。これまでの長い歴史の中で培ってきた幼児教育の本質をしっかりと進めていただきたい。

## 各区市の情報より

### 杉並区

#### 「みんなのしあわせを創る杉並の教育」

杉並区立成田西子供園長 齋藤由美

杉並区立子供園は、教育及び保育を一体的に行う区独自の幼保一体化施設である。子供園育成プログラムをもとに、幼稚園時代からの幼児教育を継承し、遊びを通した学びを大切に、質の高い教育・保育の実現に向けて、次のような取組を行っている。

#### 【教育課題研究指定園としての取組】

杉並区の教育課題を受けて、指定園が二年継続の研究を行い、毎年一園が研究発表を行っている。今年度は、教育課題「幼児期に育みたい資質・能力」に関わる研究指定を受けて、研究一年目、二年目の二園が研究に取り組んでいる。研究発表会では、区内の子供園、地域の幼稚園、保育園、小学校などに保育を公開したり、オーデマンドで配信したりし、その成果を区内外の就学前教育施設と共有している。

#### 【就学前教育の質の向上】

子供園では、今までに培ってきた遊びの中での学びを中心とした教育・保育を行い、日々の保育の中で実践するとともに、園内研究を行い、充実を図っている。また、区では、幼児教育研修や教材研究、環境を通した自発的な活動としての遊びを中心とした総合的な指導の在り方についての研修など、様々な研修を行っており、幼稚園教諭や子供園保育士が主体的に研修に参加し、保育の資質・能力の向上に努めている。

#### 【幼保小連携の推進】

幼保小の連携に力を入れており、区立小学校と就学前教育施設が協働して行う幼保小接続期カリキュラム・連携プログラムに沿って、年三回以上の小学校との交流活動や小学校教員との合同研修会を行っている。また、毎年小学校教員を対象にした幼児教育公開（保育公開）を実施し、就学前教育の意義について実際の保育を通して共有している。さらに保育公開後の協議会は、各校のスタートカリキュラムについて指導主事を中心に、参観者との協議を行っている。今後は、交流活動や合同研修、幼児教育公開など連携教育の意義や意味を明確にし、教員同士が共有しながら滑らかな接続を目指して連携教育を推進していきたい。

#### 【特別支援教育の推進】

配慮をする幼児を受け入れる体制や教育が整っている子供園へのニーズは高く、大勢の個別に配慮をする幼児が通っている。区の巡回相談等を活用したり、各園、特別支援コーディネーターを中心に、個別指導計画を作成したりし、一人一人の発達や特性に応じた教育ができるよう環境・援助を工夫している。幼児が多様性や違いを受け入れ合い認め合いながらどの幼児も安心して園生活を楽しみ確実に成長していくよう努めている。

#### 【就学前教育支援センターとの連携】

成田西子供園の二階には、就学前教育支援センターが併設されている。センターの幼児教育専門アドバイザーは、様々な研修を通して保育者を支えている。成田西子供園では就学前教育支援センターと協働研究を行い、その成果を区内の全ての就学前教育施設へ発信している。

子供園は、就学前教育支援センターと連携を図り、これからも質の高い教育・保育の充実を目指して、様々な教育活動を推進し、ビジョンの実現に向けて取り組んでいく。

## 令和6年度 公開研究発表園一覧

研究発表月日	区・市幼稚園名	研究 主題	電話・最寄り駅	指定種別
6月 14日	東京学芸大学附属幼稚園 小金井園舎	幼児教育を語る・伝える保育者 —保育の可視化の工夫（「Pシート」の活用）— ※学年別公開保育検討会 10/31 3歳児、11/8 5歳児、11/15 4歳児	042(329)7812 JR 武蔵小金井	園独自
10月 25日	葛飾区立 北住吉幼稚園	自分大好き！友達大好き！ —かつしかっ子就学前教育カリキュラムを活用して—	03(3600)8330 京成線 高砂	区
	墨田区立 緑幼稚園	遊びたい！続ければいい！またやりたい！ —思わず体を動かしたくなる環境と教師の援助—	03(3635)1395 JR・都営大江戸線 両国	都
11月 20日	千代田区立 九段幼稚園	生涯にわたり学び続ける姿を目指して —わくわく足育 保護者とともに—	03(3263)0567 JR・有楽町線・南北線・都営新宿線 市ヶ谷 半蔵門線 半蔵門	他
	墨田区立 第三寺島幼稚園	一人一人が輝く幼児の育成 —明日につながる援助の在り方を探る—	03(3614)6867 東武線・京成線 鬼舟	区
	港区立 高輪幼稚園	一人ひとりが輝くかなわの子 —豊かな関わりの中で育ち合いを支える指導の工夫—	03(3447)3356 JR 高輪ゲートウェイ 都営浅草線 泉岳寺	区
26日	江東区立 つばめ幼稚園	「みんなが つながる ようちえん」 —地域・自然との関わりを通して—	03(3649)1841 JR・半蔵門線 錦糸町～ 都バス扇橋2丁目 東西線 東陽町～ 都バス扇橋2丁目 都営新宿線・半蔵門線 住吉	区
28日	中央区立 豊海幼稚園	身近な自然との関わり「みて！どうして？わかった！」 —子どもの気付き・発見を支える援助を探る—	03(3533)0725 都営大江戸線 勝どき	区
29日	千代田区立 昌平幼稚園	自分の思いを表しながら伸び伸びと体を動かすことを楽しむ 昌平の子 —人やものとの豊かな関わりを通して—	03(3251)0768 銀座線 末広町 JR・TX 秋葉原 JR 御茶ノ水 千代田線 湯島	区
12月 上旬	杉並区立 成田西子供園	やってみたい・こんなふうにしたい・もっとこうしてみよう と心を動かして遊ぶ —遊び込む幼児を育てるための環境の工夫—	03(3311)3876 杉並区教育委員会 公式チャンネル による動画配信	区
	台東区立 大正幼稚園	「だいじょうぶ！ きっと できる♡」 —自分なりに困難を乗り越えようとする幼児を育てる—	03(3876)5584 日比谷線 入谷	区
	文京区立 根津幼稚園	「幼児の遊びを支える環境構成の工夫」 —空間の活用方法を探る—	03(3828)8703 千代田線 根津	区
1月 24日	千代田区立 番町幼稚園	探求の扉を開く—自ら考え遊ぶ力を育む—	03(3263)3725 JR・南北線・ 丸ノ内線 四ツ谷 JR・有楽町線・ 南北線・都営新宿線 市ヶ谷 有楽町線 蔴町	区
	東京学芸大学附属幼稚園 竹早園舎	未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び (幼小中連携研究)	03(3816)8952 丸の内線 茗荷谷	園独自
2月 7日	お茶の水女子大学附属幼稚園	「つくる」がうまれる暮らし 2年次	03(5978)5881 丸の内線 茗荷谷	園独自

\* 5月31日現在の情報です。今後、変更になることもあります。

\* 指定種別 区→区教委 都→都教委 他→産管学連携等

會務報告

五日	役員会
十二日	役員会・幹事会・各部会
十七日	東京都公立幼稚園・こども園教育研究会定期総会
二十三日	東京都公立幼稚園・こども園教育研究会定期総会
三十日	会計部会
五月	研修部会
十六日	東京都国公立幼稚園・こども園長会定期総会・講演会
二十一日	日本教育会東京都支部総会
二十九日	研修部会
五月	東京都公立幼稚園・こども園教育研究会実技研修会
六日	東京都教育会総会・教育講演会
六月	東京都公立幼稚園・こども園副園長会定期総会・講演会(会長)
七月	役員会・幹事会
十四日	全国国公立幼稚園・こども園長会常任理事会・総会・研究大会・愛媛大会(会長)
十七日	東京子供応援協議会(会長)

十八日	東京都公立幼稚園・こども園 P.T.A.連絡協議会定期総会(会長)
二一日	各区市園長会長会
二五日	研修部会
二七日	期題研究部会
七月	五日
	全国国公立幼稚園・こども園長会常任理事会
	調査部会
八日	十二日
	役員会・幹事会・人権教育講演会
二三日	二四日
	課題研究部会
	夏季研修会
二六日	二五日
	日本連合教育会研究大会
	愛媛大会 二六日まで
	全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会 北海道大会 二七日まで
八月	一日
	全国幼稚教育研究大会
	愛知大会 二日まで
二日	三日まで
	全国国公立幼稚園・こども園 P.T.A.連絡協議会
五日	香川大会 三日まで
	特別区園長・副園長等専門研修会
二十日	東京都公立幼稚園・こども園教育研究会 夏季研修会
二二日	東京都国公立幼稚園・こども園副園長会夏季研修会(会長)
二四日	日本教育会東京都支部講研修部会
三十日	課題研究部会・講演会

六月十四日、十五日、第七十五回愛媛大会が「未来を切り拓く力を育む幼児教育の創造」今、改めて幼児教育の質の向上を考える」の主題の下に開催された。初めに、高橋慶子会長から「国立園は、国や自治体が責任を果たす立場として重要な役割を担つており、地域の貴重な教育資源として積極的に活用していただきことが重要です。園長の資質向上、全幼Pとの連携を通して、子どもたちが未来を生き抜く素地を育んでいきましょう」と挨拶があつた。その後、令和五年度の活動報告、会計報告、監査報告があり承認され、続いて、今後の国公立幼稚園の在り方について、令和六年度の活動方針案・活動計画案、予算案など全て承認された。

文部科学省初等中等教育局幼児教育課長 前田幸宣様の講話「これからも幼児教育の課題と国公立幼稚園・こども園長会の役割」では、幼児教育を取り巻く現状、幼児教育の重要性の理解促進などについてお話をいただいた。二日目には、主題に基づく三つの提言がなされた。

**提言A**（教育課題）「子どもたちが自分らしく生きる力を育む保育」

新しい時代に対応する保護者との情報交換と感動共有（三重県鳥羽市立かもめ幼稚園 西飯陽子主任）

○幼児の遊びや学びの様子、そこにある教師の教育的意図を保護者や地域に発信し、教育の循環を図ること

立新し時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育み、豊かな心の育ちをチームで支える保育を考える。

**提言B**（教育内容）「遊びの中で育つ

○子どもにとつてのかかわりの意味、かかわりを通して得られる経験や育ちを丁寧に捉える。  
○子ども同士のかかわりと保育者の援助を考察し、遊びの充実に生かす。  
○「少子化の状況下における園経営」、公立幼稚園の存在意義を考える(和歌山県田辺市立上秋津幼稚園 中本克彦園長)  
○公立幼稚園にとって、地元の地域は最大の教育資源である。  
○多様なニーズに対応することで、保護者の信頼を得ることができる。  
○未就園事業を進め、園児の獲得を目指す。  
○質疑応答の後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育調査官(併)教育科調査官 平手咲子様より各提言について課題を踏まえてご指導いただきました。「地域と共ににある国公立幼稚園、こども園として、幼児期の楽しさ、おもしろさを保護者、小学校地域などと共に有し合う実践を期待します」というお話をいたしました。  
また、初の試みとして全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長 山崎篤史様よりメッセージをいただきました。  
記念講演「ことばを育てるところを育てる」では、俳人・俳句集団「いつき組」組長 夏井いつき様より、ことばの教育は命を守る教育であること、幼児期からの働き掛けが重要であることなど、未来を担う子どもたちを育む園長への熱いエールをいたしました。  
閉会行事では、全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会次期開催地として、本会会長が挨拶しました。